増山三雪子

しけりあふ木の間の月の涼しさに
秋かとばかりあやしまれけり

月下のピアノ

東くめ子

ばらの香たかき　花そのゝ
わか葉のこかげ　さまよへば
つきにうかれて　かなごらん
ベートーフェンの　ムンライト
そなたのまどに　きこゆなり

ひと本野菊

つねを

千代の光りも　ふは方に
知られぬ野菊　ひと本は
かわるに早き　夕暮の
雨に怨みの　色みせて
さびしき野邊を　いたはらぬ
よをわき風の　つれなくて
かゝりし露も　なにとなく
ひとりわはれの　物おもひ

瀧

瀧子

瀧といへば我日の本にては、那智の瀧、布引の瀧、裏見の瀧霧降の瀧などぞ大なる。されども、これらはおのれ見しことなければ、くはしきさまは得知らず、只めでたき山水にてながめもすぐれたることなど、ものゝふみにて知れるのみ。

小さけれども、おのれのいとも親しきは紀伊國海草郡の山にある鳴瀧なり。この山の麓には一の小さき寺あり。寺の後を通りて山道をわくれば、道の左右には楓樹いと多く茂れり。瀧は高からねど